

第5回（前回）委員会の振り返り（主な意見）

- 各施設の機能連携は、他の道の駅にはない非常に特徴ある最大の強みとして活かしていかなければならないポイントである。
- A I の活用については、加速度的に生活の中に浸透し実現してきている中で、直売施設における売れ筋予想などは、有意義ではないか。また、人とA I の関わりも重要であり、キーワードである健康の面においても、A I を使って、食生活の改善等をやっていけると良いと感じた。
- 今後、施設機能を検討していくにあたっては、機能をさらに分解していくと、機能連携の部分で新しいイメージ、シナジーが生まれるのではないかと。例えば、高速道路の管理運営を行うNEXCOでは、パーキングエリア、サービスエリアに綺麗な美しいトイレ設置する考えが広がっており、それだけでも集客が図られて、物販にもつながるということがわかっている。より快適、より便利、より美しい休憩施設空間という位置づけである。
- 料理体験や加工体験の施設や設備については、作るだけではなく、きちんとしたPRなどによって多くの方に利用してもらえる施設にする必要がある。
- コンセプトを「幸せと元気の創造ステーション」とし、食に焦点を当てて他の道の駅等との差別化を図ることをベースとしているが、道の駅単体だけでなく、周辺の施設との連携で特徴を出すところが、荒尾の道の駅の非常に大きな特徴である。ウェルネス拠点の他の施設との連携というところをできるだけ具体的に書けると伝わりやすく、また、それプラス、テクノロジーを活用したスマートシティにより、さらに差別化が図られるのではないかと感じた。
- 国交省を中心に、道の駅の新たなステージに向けて「道の駅 第3ステージ」として提言が取りまとめられ、道の駅あらお（仮称）の方向性に合致している。本構想で盛り込めるものは盛り込み、国の施策に沿っていることもアピール出来ると良い。
- 施設閉店の時間帯やキャンピングカーでも宿泊できる場所の工夫などが必要。また、自宅の庭でバーベキューができない方などのためにも、わかりやすい場所でバーベキューができるような施設があれば良い。
- スマート化については、なぜ取り組むのか、課題を明確にしてまとめていき、対応するイメージを埋めていくと良い。要求（利用者のニーズ）があり、それに対してどうしても付備しなければならない機能があり、その実現手段として、このスマート化のイメージがある。というような形で、まとめていくと良いと考える。